

あいち環境



2019/10/20

会報 第141号

一般社団法人 愛知県環境測定分析協会



「秋色の湖沼」

撮影地：鳥取県 鳥取市 撮影日：平成29年9月25日

提 供：森木 翼 氏（株式会社環境科学研究所）

コメント：被写体の名称は鳥取県にある湖山池です。秋晴れの日の夕方に撮影しました。

目次

大規模地震災害を想定した アスベスト大気環境調査訓練	2	「初級統計研修会」研修報告	5
委員会活動報告	3	「中堅実務者研修会」研修報告	6
環境月間講演会 報告	4	私の趣味	7
		事務局からのお知らせ	8

四季折々

今年9月のある夜、小学生の娘から月の動きを記録する宿題に付き合っ
て欲しいと頼まれ、親子で月を観察しました。十五夜を2日過ぎお月見日
和だったこの日の夜、ほぼ満月に近い真ん丸としたお月様は「中秋の名
月」に相応しい美しい姿でした。▼月は地球の唯一の衛星で、太陽系の衛
星の中で5番目に大きいそうです。月は直径が地球の約4分の1ですが、地
球の衛星としては不釣り合いに大きく、地球から太陽とほぼ同じ大きさに見
えます。そのため私たちに月の満ち欠けをはじめ時に皆既日食や金環日食な
どの天体ショーを魅せてくれます。▼月と地球の距離は約38万kmで、時
速4kmの徒歩で約11年、時速15kmの自転車約3年、時速100kmの自動車約
4ヶ月、時速1000kmの旅客機で約16日かかる計算になります。1969年、人
類で初めて月面に降り立ったアポロ11号は約4日で月に到着しま

した。▼近年は月探査ブームが再来しています。アメリカが2024年ま
でに月面有人探査を目指すと言明し、各国でも民間主導で月面探査機
の開発が進んでいます。どの国が一番早く月で水の存在を証明するかも競
争になっているようです。▼地球に住む生命にとり月は大変重要で、月
の引力により潮の満ち引きをもたらす、地球の自転速度や地軸を安定さ
せています。もし地球から月が無くなると、地球は地軸が不安定で揺れ、
自転が超高速となり、時速数百キロメートルの暴風が吹き荒れるそう
です。つまり月が無ければ地球で私たちが生きるのには不可能なです。
▼人はいつの時代もお月様に魅せられています。それは奇跡の地球に奇
跡的に人間として生まれた私たちが、常に静かにそして陰ながら奇跡を
もたらしてくれるお月様へ無意識に感謝し感心する姿なのかもしれません。
文責：濱地 清市

大規模地震災害を想定した アスベスト大気環境調査訓練

災害緊急時対応委員長 林 昌史

令和元年8月30日に愛知県環境部、豊橋市環境部、豊田市環境部、岡崎市環境部と当協会による災害時における環境調査訓練を実施いたしました。これまで平成28年度はアスベスト大気環境調査、平成29年度は放射線量調査、平成30年度は有害大気汚染物質調査を行っており今回で4回目の実施となりました。なお、愛知県および3中核市との合同での訓練は平成30年度に続いて2回目となります。

本訓練は、「災害時における化学物質等の調査に関する協定」に基づくもので、訓練の内容は、阪神・淡路大震災や東日本大震災のような大規模地震により、県内広域で建物が倒壊し、アスベストの飛散が懸念される状況を想定して防災拠点などにおける大気中のアスベストを調査するものです。訓練の実施場所は、愛知県においては一宮市役所および半田市役所、豊橋市においては豊橋市役所、豊田市においては豊田市役所、岡崎市においては岡崎市総合検査センターの県内5地点で行いました。

訓練内容は現地において試料の捕集を行い、その後、試料を分析室に搬入し模擬分析を実施し自治体に結果の報告を行うというものです。

訓練実施に先立ち8月5日に災害緊急時対応委員会を開催し、訓練参加会員の配置や訓練内容、当日の動きなどの確認を行いました。なお、今回の訓練には災害協力認定会員49会員のうち10会員からの参加表明をいただきましたが、地点数の関係があり5会員を選定させていただきました。

訓練当日は明け方に激しい降雨に見舞われ訓練実施が危ぶまれましたが、その後は小康状態となりました。午前9時30分前後に4自治体それぞれから協会事務局に調査要請の連絡が入り、直ちに災害緊急時対応委員であるブロック長に要請内容が伝えられ、訓練参加会員に調査協力が要請されました。

また、愛環協では自治体から調査要請を受け、災害緊急時体制として大野会長をトップとする災害対策室を設置し対応にあたりました。

調査協力の要請を受けた訓練参加会員は、測定地点に出向きアスベストモニタリングマニュアル(第4.1版)に準拠して調査機材を設置し、通常の採取時間4時間程度であるところ、模擬的に30分～1時間程度の採取を行いました。また、試料採取後は分析室に移動し模擬分析として位相差顕微鏡による総繊維数を測定し、結果を電子メールで各自治体と協

会事務局に送信するとともに電話による調査結果の報告も行いました。そして、午後4時ごろには訓練参加会員のすべての結果が協会事務局に届き、午後4時30分には協会から4自治体へそれぞれの調査結果の最終報告を行い訓練は終了いたしました。



災害対策室の様子(協会事務局)



訓練中の様子(岡崎市総合検査センター)

今回訓練を実施したことで自治体と愛環協、災害緊急時対応委員間の連絡体制の確認ができました。また、訓練参加会員も連絡・報告方法の確認ができたとともに実際に調査地点に足を運び採取機器の設置や操作を行ったことで災害緊急時における調査のイメージの醸成ができました。加えて、訓練実施後におけるアンケートによって災害時における円滑な対応に向けての課題なども得ることができました。

また、訓練当日には一宮市役所、岡崎市総合検査センターでは報道機関の取材があり、翌日の新聞記事に訓練の様子と愛環協の紹介文が掲載され、県民や市民の関心や協定の社会的意義の高さを感じるとともに、訓練の報道を通じて当業界の社会的な認知度向上にも寄与できたのではないかと考えています。

最後に、本訓練の計画と実施にあたりましては、愛知県環境部環境活動推進課様、豊橋市環境部環境保全課様、豊田市環境部環境保全課様、岡崎市環境部環境保全課様の全面的なご協力を頂いたことに深く感謝を申し上げます。また、今回の訓練に参加いただきました三協熱研(株)様、(株)静環検査センター名古屋支店様、中外テクノス(株)中部支社様、(株)テクノ中部様、(株)東海分析化学研究所様にも多大なるご協力をいただき誠にありがとうございました。



取材の様子(一宮市役所)

災害緊急時対応委員会では、今回の訓練で得られた知見を今後に生かし、有事に備えたいと思います。これからも会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

委員会活動報告

◇ 総務委員会

総務委員会では、恒例の「環境に関する喚起標語」作品を来春に募集する予定です。特選作品は、令和2年度の協会喚起標語として採用し、表彰させていただきます。次回も皆様からの素晴らしい作品をお待ちしております。

また、3月には「令和元年度景況調査」の実施も予定しておりますので、みなさまのご協力をお願いいたします。

総務委員長 林 辰哉

◇ 企画・対外交流委員会

令和元年度第2回の企画・対外交流委員会を9月

6日に開催しました。10月11日開催の施設見学会について、参加人数、行程、各施設の概要について確認し、当日の役割分担を決めました。今回は「科学と自然と歴史を学ぶ」をテーマに、バスで行く土岐市の核融合科学研究所、八百津町の丸山ダム、杉原千畝記念館を企画しました。施設見学会の目的の一つであります若い世代の会員交流の場として多くのご参加を頂きました。施設見学会の様相につきましては、次号の会報誌で報告いたします。

また、協会ホームページでは、「企画・対外交流委員会」として一本化しました。施設見学会をはじめ、各種講演会やセミナー等のトピックスを随時紹介し、会員の皆様にとって有意義な企画、交流の場を提供できるよう努めて参ります。

企画・対外交流委員長 角 信彦

◇ 教育研修委員会

7月11日に16名が参加し、初級統計研修会を開催しました。(株)東海分析化学研究所夏目氏、(株)ユニケミー服部氏、(一社)愛知県薬剤師会田村氏の講師3名からPCを用いた演習を交え統計の方法を学びました。

9月19・20日には15名が参加して中堅実務者研修会を開催し、精度管理及び不確かさを含む研修を行いました。上記の夏目氏と田村氏のほか、(一財)東海技術センター土屋氏及び菊谷氏、愛知県立岡崎工業高等学校井上氏、(株)環境科学研究所牧原氏の6名にご講演頂きました。測定分析の信頼性確保、精度管理について熱心に学び、講師を交えた懇親会で参加者同士の親睦を図りました。

11月15日に「環境計量士等研修会」を予定しています。多数のご参加をお願いいたします。

教育研修委員長 佐藤 博

◇ 広報・ホームページ委員会

8月23日に委員会の統合以来初めて広報ワーキンググループとホームページ(以下、「HP」という)ワーキンググループが合同で委員会を開催しました。委員会後は懇親会を行い新たなチームメンバーと親睦を深めました。

< 広報ワーキンググループ >

8月23日に本年度第2回の広報ワーキンググループの会議を開催し、本誌(141号)の編集内容を決定しました。また今後の記事の分担や企画を検討しました。

< HPワーキンググループ >

8月23日に本年度第2回のHPワーキンググループ

の会議を開催し、愛環協のHPのリニューアルについて議論・検討しました。また定期のHP更新作業を行いました。

広報・HP委員長 濱地 清市

◇技術委員会

第2回技術委員会を9月24日に開催し、共同実験・勉強会について検討を行いました。

<水質・土壌ワーキング>

模擬環境水(汽水域)の鉛及びほう素を対象とした第1回共同実験について、現在、結果報告書のとりまとめを進めており、12月9日に日本特殊陶業市民会館にて検討会を開催します。当日は共同実験結果の説明に加えグループに分かれてディスカッションを行います。実務担当者の交流の場としてもぜひご利用いただきたいと思います。

<大気・臭気ワーキング>

第2回共同実験は協力事業所様に場所を提供していただき模擬環境大気及び放流水の臭気を取り上げ開催します。10月31日に試料採取を行い、報告期限は11月29日となっています。令和2年2月27日には結果検討会も開催し、実務担当者による意見交換の場も設定します。共同実験として試料採取から実施する機会は少ないため、意見交換を通じ会員企業様の技術向上につなげていただきたいと思います。

<騒音・振動ワーキング>

今年度は「周波数分析の基礎について(予定)」というテーマで令和2年2月26日に日本特殊陶業市民会館にて勉強会を開催予定です。周波数分析の基礎から分析方法などについて勉強するとともに、騒音等のトピックスについてもお話しできれば良いかと考えています。1月に参加募集案内の配布を予定しております。なお、令和2年度共同実験において開催予定の「周波数分析の実習」につながる座学となります。次年度の共同実験と合わせた参加をご検討いただけましたら幸いです。

技術委員長 土屋 忍

◇災害緊急時対応委員会

令和元年度第1回委員会を6月25日、第2回委員会を8月5日に開催しました。第1回委員会では、新しく委員に加わった大場理事を迎え令和元年度の活動計画、災害協力認定会員名簿の更新について会議を行いました。今回の名簿更新で新たに1会員の参加をいただき災害協力認定会員数は49会員となりました。

第2回委員会では本年8月30日に実施する愛知県、豊橋市、岡崎市、豊田市との災害協定に基づく訓練(大規模地震災害を想定したアスベスト大気環境調査訓練)の会員配置や委員の役割について打合せを行いました。訓練当日は自治体からの調査要請を受け、各会員が測定地点へ出向き、大気の模擬採取と結果報告を行うことで一連の流れを確認できました。

愛知県環境部環境活動推進課をはじめ関係自治体の方々多大なご協力のほか、会員皆様のご尽力により、充実した訓練を行うことができました。今後は訓練を通じて得られた課題等への対応に取り組み、災害時に少しでも円滑に対応できるよう活動を進めてまいります。

災害緊急時対応委員長 林 昌史

環境月間講演会 報告

6月21日に、日本特殊陶業市民会館にて愛環協と(一社)日本環境測定分析協会中部支部共催の「令和元年度環境月間講演会」が開催されました。この催しは環境の日に合わせて毎年行われており、今年度は2講演が行われましたが、暑さも日に日に増している中多くの方が参加されました。



加藤 敦雄 様



浦上 奈々 様

はじめに、日頃一般廃棄物対策に従事している愛知県環境局資源循環推進課 主査 加藤敦雄様による「海洋ごみの対策について」の講演がありました。

海洋ごみとは、海ごみのなかでも生物が分解できない人工物のごみのことを指します。海洋ごみの半数は日常生活から出るもので、特に愛知県に面する伊勢湾や三河湾の海洋ごみは半島に囲まれているため、外洋からのものは少なく内陸から出たと思われる

るものが多いということでした。ごみのなかには川の流れて海へ出たものもあり、海洋ごみは海の近くに住む人だけの問題ではないという点がとても印象的でした。

世界に広がる海の問題は、一つの国や地域だけでなく国にまたがった大きな問題です。罰則などを設け数名を摘発するのではなく、社会的・文化的な変革をし、ひとりひとりが無視できない身近な問題であるという人々の意識の変革をもたらすことが重要だとのお話もありました。海洋ごみの対策には、調べ・学び・行動することが大事であるとおっしゃっており、国や愛知県で取り組まれている海ごみの発生抑制に関する様々な普及啓発活動もご紹介いただきました。まずは、海洋ごみについて知ることが大切であると感じました。



講演会の様子

続いて、国際連合地域開発センター 浦上奈々様による「地域で進める持続可能な開発目標 (SDGs)」の講演がありました。

SDGsとは「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」の略です。

2015年9月の国連サミットで採択された世界全体で取り組むべき目標で、17のゴールと169のターゲットが設定されています。17のゴールには地球環境そのものや密接にかかわる課題が数多く含まれ、例えば先述の海洋ごみの対策は「海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」という目標につながるとおっしゃっていました。本講演では、SDGsとは何かということだけでなく、国や、SDGs未来都市に選定されている豊田市などの地方自治体、一般企業の取り組みをモデルとして、どのように取り組めばよいのか分かりづらいつと声の多いSDGsへの取り組み方をお話いただきました。

特に、女性社員が出産後も働きやすい環境を作ることを発端にSDGsの目標に通じる様々なアクション

を起こした企業の取り組み事例は、昨今の働き方改革にも通じる面がありとても興味深く聴講させていただきました。

文責：青木美樹

「初級統計研修会」 研修報告

一般社団法人愛知県薬剤師会 藤原 小与

7月11日に開催された「初級統計研修会」へ参加させていただきました。私は普段から分析業務に携わっています。得られた測定値を客観的に判断することが必要でありながら、大学時代に受講していた統計学を活かしきれていない状態でした。

研修会では、「基本統計量」「検定」「外れ値の検定」の3つの講義を受講し、それぞれパソコンによる統計処理の実習を行いました。

「基本統計量」では、データを扱う際になぜ統計的判断が必要なのかという初歩的なことから教えていただきました。また、例題を用いてExcel分析ツールを使用した便利な関数計算を学ぶことができました。

「検定」では、平均値の検定や平均値の差の検定を学びました。自分で状況を整理し、用いる検定方法を判断することは難しかったのですが、手順を1から教えていただけたので意欲的に取り組むことができました。

「外れ値の検定」では、精度管理評価でよく使用されるZスコアやGrubbs検定について学びました。より数値の信頼性を確保するために、外れ値の発見や対策をする重要性を認識しました。



研修会の様子

今回の研修会に参加して、測定して得られたデー

タを客観的に判断し、数値の信頼性を確保する上で統計処理の重要性を感じました。テキストをいただくことができたので、テキストを見返しながら今回学んだことを復習し、今後の分析業務に活かしていきたいと思えます。

「中堅実務者研修会」 研修報告

株式会社テクノ中部 片倉 隆徳

9月19日～20日にかけて開催された「中堅実務者研修会」に参加させていただきました。

分析業務に携わる実務者として、環境及び機器分析の精度管理・環境法令等については、技能向上のため勉強していかなくてはならないと感じておりました。しかし、日々の業務に追われ、勉強不足な部分があったため、今回このような研修が開催されることを知り、自身の知識向上を目指し、受講させていただきました。

初日は「環境分析及びサンプリングにおける精度管理」について講義があり、適切なサンプリングを行うための重要点や種類別の採取方法、採取時の保存方法等について学びました。もしも誤った方法でサンプリングや保存をした場合、どれだけ正確な測定をしても信頼できないものになってしまうことを再認識できました。

次に「機器分析の精度管理」では、標準物質の取扱い、検量線の作成方法、各分析機器における点検・測定条件の設定方法についてご講義いただきました。現在使用している分析機器のメンテナンス等の精度管理についてより深く理解することができ、今後の分析業務へ活かしていこうと思えます。



研修会の様子(1日目)

2日目の「環境法令について」の講義では、法体系や法令用語等の基本的な部分から法規制の動向について解説していただきました。分析者として、最新の情報を早期に把握し理解しておくことの重要性を再認識できました。

次に「数値の扱い方、下限、妥当性及び基本統計量」では、実際にエクセルの計算シートを使用し、各測定値から求められる標準偏差、自由度、併行及び室内精度の算出方法についてご講義いただきました。数値の扱い方については、JIS Z 8401で定められている数値の丸め方の規則を理解することができました。

「相関分析・回帰分析」の講義では、エクセルの分析ツールを使用し、与えられた分析データから、相関係数の算出や相関及び回帰の有無の検定方法等について学びました。実際に自分自身で考え計算することにより、相関分析や回帰分析についてより理解を深めることができたかと思えます。

最後に「不確かさの検出」では、不確かさの定義、さまざまな確率分布と不確かさ、標準試薬のトレーサビリティと不確かさ等についてご講義いただきました。特に不確かさ評価の手順については、六価クロムを例題にあげ、分析フローや特性要因図の作成等を具体的に教えていただき、より理解を深めることができました。



研修会の様子(2日目)

初日の研修会終了後には懇親会を開催していただき、講師の方や同業他社の方々と意見交換することができました。特に同業他社の方々の分析業務への考え方や取り組み方を聞いたことは大変参考になりました。これから中堅実務者として分析業務を遂行するにあたり、本研修で学んだ知識を活用し、さらなる技能向上に努めてまいります。



「私の趣味」

一般社団法人愛知県薬剤師会 田村 励治

愛知県薬剤師会に勤めて35年、まだまだと思っ
ていましたが、あっという間に定年を迎える歳になっ
てしまいました。

今年の初めにそんな話を、同い年の静岡県生活科
学検査センターの岡田さんとして、じゃあ記念
に卒業旅行にでも行きますかという話になり、7月25
日から29日の5日間、タイに行くことになりました。岡
田さんとは月に2回ぐらい会議でお会いする間柄
で、同じ薬剤師会系の試験検査センターに勤める古
くからの友人です。卒業旅行では、共通の趣味であ
るゴルフを楽しむこととし、料金が安く名門コースの
多いゴルフ天国タイに行くことにしました。タイには弟
が仕事で駐在していたこともあり、現地事情に詳しく
お値打ちに行けるということも決め手の一つです。

旅の手配は、弟夫婦に任せて現地の代理店にプラ
ンを組んでもらいました。お陰で、航空運賃やホテル
宿泊費またゴルフ代等が相当安くなり、浮いた分で
往復航空機の座席(ビジネスクラス)やホテルをグ
レードアップして、少し優雅な旅にカスタマイズする
ことが出来ました。専用の送迎サービスも手配してく
れたので何処に行くにも便利でした。ゴルフ場など
ではプレーが終わるまで駐車場で待機してくれます。
ただし、日本語が判らないのは難点でした。

初日は、寝仏像で有名なワットポーを観光して、移
動で疲れた体をタイ式マッサージでほぐし、いよいよ
2日目に名門サイアムカントリー オールドコースへと
繰出しました。

ゴルフ場に着くとさすが名門と言うだけあって、モ
デル並みのスタッフが迎えてくれて、ふかふかの芝と
濃い緑の中には宮里藍を含めた歴代PGA優勝者の
等身大写真が飾られています。自然とテンションも上
がってきます。

コースに出ると、カートがプレイヤー毎に用意され
ていて、「微笑みの国タイ」のような美しいキャディさ
んが案内してくれます。カートは二人乗りで、打った
ボールの所まで行けるので殆ど歩くこともありません。
正に「王様おもてなしゴルフ」です。

しかし、ゴルフ場は、美しいのですが池とバンカー
ばかりで、とにかく難しく、浮かれて気負過ぎた二人
が仕掛けられた罠に尽く嵌ったのは言うまでもありま
せん。一度バンカーからバンカーへと渡り歩き、ガッ
クリしているとキャディさんがニコッと笑って11打の所
を9打と付度してスコアカードに書いていました。無

残なスコアを叩いてしまいました。ゴルフは終始楽
しく、コースを満喫して、二人とも来年もまた来ると
リベンジを誓って名門ゴルフ場を後にしました。



左:岡田さん 右:私



池とバンカーばかりのコース

3日目もゴルフを楽しみました。向かったのは別の
ゴルフ場で、サイアムカントリーに比べると少し見劣り
しますが、一流ゴルフ場です。キャディの質も違い、
岡田さんに付いたキャディは男性でした。キャディ同
士で賭けているのか、相手が良いプレーをすると悔
しそうにして、ミスをするやけに嬉しそうにします。
だからアドバイスにも熱がこもり、少しうっとうしく感
じる程でした。特に私が打つ前には必ず「シャー
シャー」と言って来るのです。「シャーシャー」とはタ
イ語で「ゆっくり」と言う意味で、スイングにためが
無いからゆっくり振りなさいと言っているのです。また、
パッティングなどは這い蹲ってラインを読み、カップ
を10等分に分けてここを狙えと素人相手とは思えな
いような細かい指示を出して来ます。前日の「王様お
もてなしゴルフ」を経験しただけに、少しテンションが
下がり気味でしたが、スコアは2バーディーを奪うな
ど好調で、途中から適切なアドバイスだと気付いて反
省した次第です。このゴルフ場はきっと競技者向け
だったのでしょ。

2日間のゴルフで、ゴルフにも色々な楽しみ方があ

ることに気付かされ、そしてスコアUPにはメンタルが重要なことを再認識しました。お陰で、趣味のゴルフの楽しみ方も見直すことが出来ました。

4日目は、バンコクを観光して23時過ぎの飛行機で帰る予定でしたが、ここで事件が起きてしまいます。空港に着いて搭乗手続きを待っていると、いつまで経っても搭乗開始にならないのです。電光掲示板には私達が乗る予定の飛行機の所に赤く「取消」が表示されたままです。言葉が通じないので、困り果て、岡田さんに翻訳機を使って通訳してもらおうと、ようやく「今日の便はない」と判りました。その時の心境は正に「茫然自失」です。今でも、電光掲示板に「取消」が表示されている理由は判らないのですが、よく確認すると翌日の便が予約されていました。弟夫婦に頼んだので詳しいことは判らないのですが、たぶん申し込む際に日本の日付を入力したのでしょう、時差があるので日本は29日でもタイは28日なのです。私達がしっかり確認しなかったのが原因なので、準備してくれた弟夫婦を責めることも出来ず、その日は空港内のホテルに泊まり、お陰でもう1日旅行を楽しめると割り切って、翌日はアユタヤに出掛けることにしました。

おまけで行くことになった5日目のアユタヤは、天候に恵まれ予想以上に美しく、満足できるものでした。こうして卒業旅行は、ハプニングにも遭いましたが

目的だったゴルフも堪能して忘れられないものになりました。

最後に、私はこれまで多くの方達とゴルフをご一緒させて頂きました。その中には愛環協の会員も多く、この業界で様々な方達と知り合えたのもゴルフのお陰だと思っています。これからも仲間を大切にして、末永く「趣味のゴルフ」を続けて行くつもりです。



アユタヤ

事務局からのお知らせ

【環境計量士等研修会】

令和元年11月15日(金) 日本特殊陶業市民会館

【2019年度第1回共同実験結果検討会】

令和元年12月9日(月) 日本特殊陶業市民会館

【SOP研修会】

令和2年1月24日(金) 日本特殊陶業市民会館



編集後記(林 辰哉)

10月になったというのに30℃を超え、秋の題材を扱う10月号の編集に違和感を覚えながら、半袖短パンの格好で編集作業を行っています。本誌が届く頃には、きっと秋らしさが漂っていることでしょう。

暑さも一段落した秋の季節は「○○の秋」と言われるように、様々なことに挑戦しやすい季節です。新たなことを始めてみてはいかがでしょうか？

四半期に一度の発刊である「あいかんきょう」も季節感を取り入れた編集を心掛けていきたいと思っています。

発行人 (一社)愛知県環境測定分析協会

〒460-0022 会長 大野 哲
名古屋市中区金山1-2-4 アイディエリア405号
TEL: 052-321-3803
FAX: 052-684-4238
E-mail: aikankyo@nifty.com

編集 (一社)愛知県環境測定分析協会 広報委員会

委員長: 濱地 清市
広報WG幹事: 林 辰哉
委員: 大場 恵史、田村 励治、
糸魚川 広、青木 美樹